

コンソーシアム活動（2025年度）の概要

令和7年度のコンソーシアムWGおよびシンポジウムの開催実績を以下の表1に示す。

表1 令和7年度コンソーシアムWGおよびシンポジウム開催実績

No.	内容	場所	日程
1	WG1 大学機関への研究費支援 R7活動のマイルストーン WG4でのデータ取得とデータベース化 R6活動報告	三咲デザイン	令和7年4月 22日(火) 11:00~17:00
2	自動車技術会 マルチエージェント交通シミュレーションOS 12件発表	パシフィコ横浜	令和7年5月 23日(木) 13:05~18:55
3	WG 歩行者シミュレータ体験会 四国運輸局話題提供 もみのき・友近法律事務所話題提供 ヒューマンファクタ分科会	瀬戸内シミュレータ 香川大学	令和7年5月 28日(水) 12:30~17:30
4	WG マツダ話題提供 日本自動車研究所話題提供 大学機関への研究費支援 R7各WG活動方針・計画 JSAE春季大会OS申請 ワークショップ開催について	茅場町貸会議室	令和7年7月 9日(水) 11:00~16:00
5	WG 歩行者行動分析の実験プロトコル検討 新たなマルチエージェント交通シミュレーションの アーキテクチャ検討	オンライン	令和7年8月 27日(水) 13:30~17:00

No.	内容	場所	日程
6	<p>ミニシンポジウム</p> <p>ゼンリン話題提供</p> <p>ジオテクノロジーズ話題提供</p> <p>Blueke 話題提供</p> <p>香川大学話題提供</p>  	香川大学	<p>令和7年8月 28日(木)</p> <p>13:30~17:00</p>
7	<p>参画研究者経費支援研究紹介</p> <p>参画研究者経費支援採択者研究紹介</p> <p>東洋大学 鈴木宏典先生</p> <p>「自動車開発に資するヒューマンファクタ解明に向けた複数台運転シミュレータ連携技術による実験方法論の確立」</p> <p>京都橘大学 木村年晶先生</p> <p>「表情フィードバックによる車間距離保持の促</p>	オンライン	<p>令和7年11月 5日(水)</p> <p>13:30~16:00</p>

No.	内容	場所	日程
	<p>進効果」</p> <p>香川大学 長谷川裕修先生</p> <p>「現地観測と分散シミュレーションによる無信号横断歩道における歩行者・ドライバーの非言語的コミュニケーションに関する研究」</p>		
8	<p>WG</p> <p>愛知淑徳大学人間情報学部感性工学専攻訪問</p> <p>研究紹介（森博子先生）</p> <p>施設見学</p> <p>研究者経費支援事業の進捗概要報告</p> <p>WG4 歩行者実験報告</p> <p>話題提供および意見交換（香川大学、ジオテクノロジーズ）</p>  	愛知淑徳大学	<p>令和8年1月 30日（金） 11：00～16： 00</p>

No.	内容	場所	日程
9	WG HF 分科会での取り組み内容 ロードマップ検討 R7 年度研究者支援事業報告 歩行者実験報告 R8 年度研究者支援事業公募の方針	茅場町貸会議室	令和 8 年 3 月 27 日 (金) 13:00~17:30

本コンソーシアムは、ヒト・モビリティ・ソサエティに関わる様々な社会課題を解決するため異なる分野の研究者が協力して新たな解決策や視点を創出できる方法論の提案・研究・実証等を行うことを主目的としている。この目的の達成のためには、研究者のネットワークの充実、新たな研究テーマへの挑戦が必要であり、今年度は、そのための取り組みとして、

- ・自動車技術会でのコンソーシム活動に関連する研究・開発についての口頭発表
- ・研究者支援事業の実施

を新たに開始することができた。今後も、これらを継続し、優れた研究者に参加してもらえる土壌づくりを行っていきたいと考えている。

また、本コンソーシアムは、机上の空論で終わることなく、研究成果を産業界に持ち帰って役立ててもらい、実際の製品化、サービス化のプロセスにより社会課題が解決されていくループが構成されることを重要視するものである。本年度は、そのためのロードマップとして、以下を定めた（図 1）。これに基づいて、次年度以降も活発に活動していく所存である。

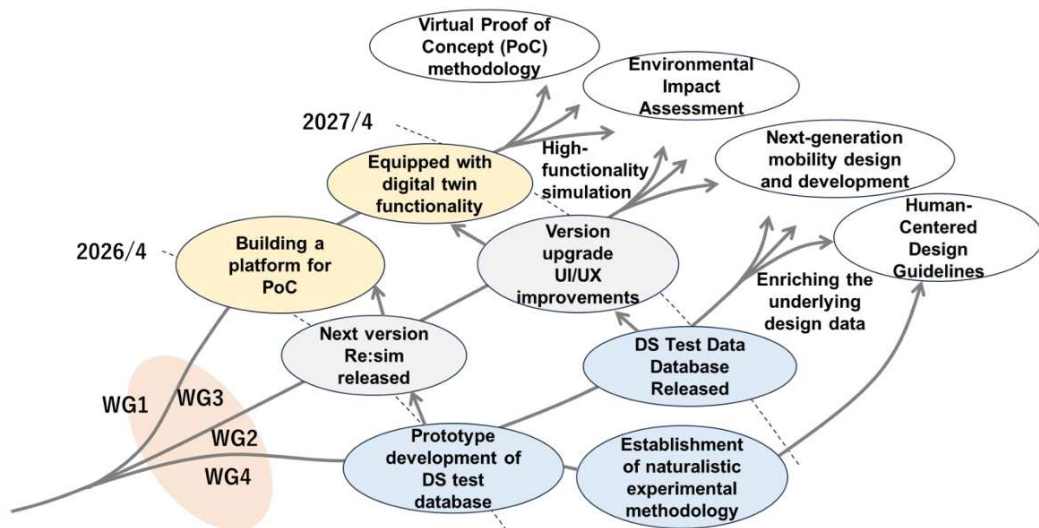


図 1 コンソーシアム活動のロードマップ